

## 村づくりで地元を誇りと愛着を

NPO法人名水の里杉山 理事長  
松岡 良啓さん

青葉山の麓にある約14世帯50人弱の小さな村「杉山」。市民農園の開設を機に都市部の住民との交流の輪が広がる中、地域の活性化を目指し、地酒づくりや水車小屋の復活、パン焼き石窯の整備などに取り組んでいるNPO法人名水の里杉山理事長の松岡良啓さんにお話を伺いました。

耕作放棄地を解消するため開設した市民農園。最初は、こんなところに本当に人が来てくれるのだろうかと心配していましたが、説明会には17人が聞きに来てくれて、

とても嬉しかったのを今でも覚えています。

以来、農園利用者の皆さんと杉山地区の間でさまざまな交流が広がっています。

市民農園から始まった交流は、杉山地区の農地を守る活動にとどまらず、私たちに地域の誇りと自信を与え、毎年、キャンドルイルミネーションやコンサートなどの催しを開催する原動力となっています。

現在は、ワークショップを開催して作成した「杉山の村づくりの方向性を描いた地域構想図」に基づき、名水にこだわった地酒づくりや水車小屋の復活、杉山わさび園やパン焼き石窯

の整備など、杉山区民が一体となって村づくり活動を行っています。

また、今年から「まいづる広域観光公社」と連携し、石窯ピザ作り体験や杉山の豊かな自然を満喫してもらおうツアーも始めました。

私は、地域の活性化とは、行政の支援を要せず、経済的に自立することだと思っています。そのためにも、これからは農産物の加工所などを作り、みんなでアイデアを出し合いながら、杉山ならではのブランド特産品をいっぱい作ってきたいです。

そして、都市部に住む人たちが、「豊かな自然」「美しい景観」「人のぬくもり」といった「心の癒し」を求める中、杉山に来てもらい、その良さを知ってもらうとともに、さらなる交流の輪を広げていき、ここ杉山だけでなく、府県を越えた地域とのつながりも大事にしなが、点から線へ、そして面へと広がっていくような面白い企画を考えているところです。魅力ある地域資源を活用し、地域がさらに活性化することで、誰もが誇りと愛着をもって「杉山って良いところや」と胸を張って言ってもらえようになればと思っています。

## 編集後記

由良川の「川舟レース」に初めて参加。炎天下でしたが気合は十分。本気で優勝を狙いました。予選1回戦、スタートダッシュでいきなり出遅れましたが、冷静さを保ち無心でオールを漕いでいると、折り返し地点でなんと首位に立ったのです。「いけるぞ！」しかし、ここまで。気持ちとは裏腹に舟は逆方向に：岸に激突。記念すべき初参加は「失格」となってしまいました。体力をつけ、舟のしくみを勉強して来年こそは！地域の皆様、ありがとうございました（ひさお）。

日星高校の長岡怜奈さんが、インターシップ制度を利用して市役所で研修を受けました。広報広聴課では、市内のイベントの取材を体験。真剣なまなざしで写真を撮り、参加者に積極的にインタビューして、すてきな記事を残してくれました。今号のカメラアイ「杉山地区で夏の思い出「名水の里・杉山」満喫自然体験ツアー」が彼女の記事です！今後も応援しています。学校の勉強も頑張っってね（なおこ）。



▶カメラを片手に取材先に向かう長岡さん

